

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京藝術大学
整理番号	A-②-4
事 業 名	国際アニメーションコース創設に向けた日中韓 Co-work カリキュラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	
<p>本プログラムは、東京芸術大学、中国伝媒大学及び韓国芸術総合学校の日中韓3か国の芸術大学がアニメーション作品の共同企画やウェブ会議、共同制作並びに上映会から構成される一連の作業を合同で実施することにより、映像分野におけるグローバル化を先導する人材の育成を行うものであり、将来的には、国際アニメーションコースの設置を目指す意欲的な取組である。</p> <p>プログラムは初年度から順調に進捗しており、3大学の教職員が連携して学生とともに取り組んでいる点は、芸術系大学の国際的連携教育のモデルとなるものと言える。また、当初計画にはなかった交換留学プログラムを追加した点や、3か国の文化芸術フォーラム、SIGGRAPH ASIA 等への参加を通して国内外への情報発信を積極的に行っている点、職員の海外短期語学研修や外国人留学生と職員の交流授業により外国人学生の支援強化に取り組んでいる点は評価できる。さらに、派遣・受入数ともに交流実績が目標を大きく上回っており、語学力目標も全員が達成している点や単位取得を伴う3か月以上の交流実績が目標を大きく上回っている点も評価できる。</p> <p>一方で、外部評価書を作成し、産業界等からのレビュー・アドバイスを得ているものの、その結果を受けた改善策が示されていない。今後は、評価結果に基づいて、PDCA サイクルが展開されることを期待する。また、それぞれの演習等が各大学において異なる科目の単位として認定されていることから、共通カリキュラムが構築されているとは言い難い。将来計画で掲げる「国際共同学位」が授与できる質保証を伴う国際コースの設置に向け、基本的な協議を行っていくことが望まれる。日本国内の芸術関係のコンソーシアム等に積極的に成果発信を行い、芸術系大学の国際連携の教育モデルを先導していくことが期待される。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。</p>	